

第2回 NIE「わたしの推し記事」コンクール 高等学校 最優秀賞

飯貝 仁美（県立明石南高等学校2年）
私の推しは、「遺族の言葉」です！

選んだ記事：朝日新聞 2024年1月26日付朝刊

見出し：京アニ事件死刑判決 見守る遺族 納得と無念

他人に薦めたいほど、どうしてこの記事に魅力を感じるか、この記事が広まれば社会にどんな変化があるかを書いてください（600字以内）

私は被告に、死刑に処されてほしいと思っていた。だが、この記事の遺族の言葉で考えが変わった。「優しくて楽しいアニメをつくる京アニに死刑は似合わない」この遺族の言葉が、私はとても胸に刺さった。私は大好きなアニメをつくってくれた、アニメーターの方々の命を奪った被告に、とても怒りを感じていた。だから、最も重い刑を受けて、反省して、悔いてほしいと思った。被告には、心から信頼できる人や、相談できる人がいなかったことが、この事件を起こしてしまった、被告の考えが変わってしまった原因だと思う。京都アニメーションの作品は、人と人とのかかわり、人のあたたかさ、人間のやさしさを伝えてくれる。被告にも、その想いが伝わってほしかった。人間関係が一人の人格をつくると考える。この記事にもある通り、「『失いたくない』と感じる人間関係が必要だ」。現在日本では、孤立化が進んでいる。周りに相談する相手がない人が、増えてきている。人口減少の問題だけでなく、私たち学生の中でも、周りとは馴染めず、ひとりぼっちがでてくる。友達とは人間関係の一つで、大きな存在である。大人になっても、その存在は大きいだろう。だからこそ、学生のころから築いていくことが大切であると思った。この記事を読んだ多くの人が読み、自分の周りで自分を支えてくれている人のやさしさ、あたたかみを改めて感じて、今の自分があることに気づくだろう。もう誰にも失ってほしくないから。